

部門別の概況（連結）

戦略事業が好調に推移し、当期は売上高、営業利益、
経常利益、当期純利益ともに増加となりました。
各部門別の概況を、詳しくご報告します。

コンシューマ部門

デジタルカメラでは2003年国内販売No.1の「EX-Z3」を始め、より高解像度の「EX-Z4」、さらに電池寿命を2.5倍とした「EX-Z30」、「EX-Z40」と新製品を発売し高い支持を獲得。高シェアの電子辞書は30機種以上の業界最多のラインアップを揃え、学生・ビジネスマンなどユーザーごとに最適なコンテンツを収めたモデルを展開。海外向けも順調に推移し、大幅増収となりました。



売上高
188,960百万円

時計部門

電波時計がGショック最高峰シリーズ「The G」の好調により大きく伸長。また高感度の電波受信機能と大容量のソーラー駆動システムを搭載しながらも薄くスタイリッシュなソーラー電波ウォッチを発売するなどラインアップの拡充にも努めました。海外市場も米国に加え欧州で英・独両局モデルによる積極的な展開を図った結果、増収となりました。



売上高
70,131百万円

SEGMENT INFORMATION

MNS部門

メガピクセルカメラ付き第三代携帯電話が好調に推移。さらにauブランドでは初の200万画素カメラ搭載機を発売するなど市場ニーズに迅速に対応。韓国LGテレコムとの提携による韓国での販売も好調に推移し、海外市場の拡大にも注力した結果、増収となりました。



売上高
97,805百万円

情報機器部門

世界的なIT関連需要減退の影響を受け減収となりましたが、データプロジェクター市場に本格的なモバイルジャンルを確立するべく、高輝度モバイルプロジェクターと多目的プロジェクターカメラを販売開始するなど様々なソリューションを展開しております。



売上高
48,706百万円

デバイス部門

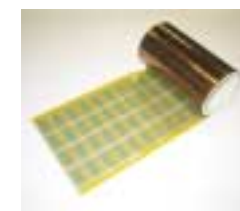
TFT事業がデジタルカメラ向けで全世界約5割のシェアを獲得、携帯電話向けの海外市場開拓も進め大きく売上を伸ばしました。またパソコンの需要回復によりカシオマイクロニクス(株)のCOF(チップ・オン・フィルム)が当初想定を上回る勢いを示すなど好調に推移し、大幅な増収となりました。



売上高
86,903百万円

その他部門

山形カシオ(株)の部品事業が大きく伸長し、フレクストロニクス社との製造委託提携により愛知カシオ(株)の独自事業を整理した影響を吸収し堅調に推移いたしました。



売上高
31,023百万円